

Happy  
support

## 2020年度 仕事と介護の両立支援セミナー ～認知症の人に寄り添うコミュニケーション 『ユマニチュード』の実践～

11月13日（金）、会社（人事部）とハピサポ（日本新薬グループ共済会）の共催にて「仕事と介護の両立支援セミナー」を開催しました。コロナ禍の影響を受けて、集合セミナーをオンラインに切り替えて実施し、事業所やグループ会社の方にもご参加いただき、総勢で約100人となりました。年代も20代～60代と幅広く、認知症や介護に対する関心の高さを感じましたが、女性社員が圧倒的に多かったことから、まだまだ介護に対する意識は女性の方が高いことを表しているようでした。（ハピサポ事務局 NSS 総務企画部 / 福利厚生担当）

開講あいさつでは、本間人事部長（共済会理事長）が、「認知症は高齢になるほど発症の危険が高まるが、若年性認知症は働き盛りの人が発症する。認知症は、早期の診断や治療が大切といわれており、また、認知症による変化は本人よりも家族や身近な人が先に気づく場合も多いので、家族の変化を見逃さないようにしてほしい。本日の受講が、認知症の人を支えるために認知症を正しく理解し、症状の改善にもつながる適切なケアを学ぶ機会となることを願っている」と述べられました。

講演では、オフィスヒューマン代表 杉山久美子氏から、「人生100年時代、誰もがいつかは直面するかもしれない『認知症の介護』について、誤解や偏見を持つことなく、認知症の人の状態（例えば、認知できる視野の範囲が狭くなる）を理解してほしい。困った症状に対しても、介護する人が接し方を変えることで劇的に症状を改善できる可能性もある。その鍵となるのが“アイコンタクト”を重視する介護法の一つがフランス発の『ユマニチュード』である」と述べられ、認知症の人に寄り添うコミュニケーションを追求したケア技術であるユマニチュードの4つの柱（「見る」、「話す」、「触れる」、「立つ」）について実践のポイントをわかりやすく教えていただきました。

杉山先生の講義の後に、株式会社脳活性総合研究所 専務取締役 千村 剛氏より、軽度認知障害（MCI）に関する情報提供と正常時から認知機能を測ることで、認知機能の低下をいち早く把握することが重要であるというお話がありました。同研究所の認知機能の低下を定期的な検査で捉える「脳活性度定期検査（脳検）」のご紹介もあり、無料体験（通常180日間6,980円）のご案内もいただきました。

今後も、このようなセミナーを企画して参ります。最新情報などはWEBサイトをご確認ください。 <https://nsg-kyosai.jp/>



オフィスヒューマン代表  
杉山久美子氏

脳検



脳活性度定期検査  
イメージ図

News

介護に関する新メニュー（10月開始）は、WEBサイトをご確認ください。

◆「Life100」介護相談室に『ワーク&ケア ヘルプライン』を導入しました。

◆『（管理職向け）介護に関するWEBセミナー（動画）』を配信しています。